

(3) 北 関 東



北関東地域では、景気は回復している。

- ・ 鉱工業生産は緩やかに増加している。
- ・ 個人消費は持ち直している。
- ・ 雇用情勢は着実に改善している。

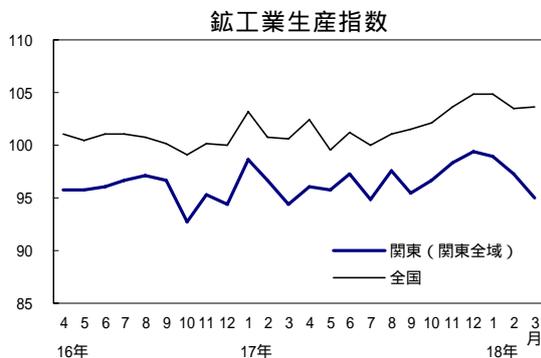
前回調査からの主要変更点

なし。

1. 生産及び企業動向

(1) 鉱工業生産は緩やかに増加している。(関東全域)

一般機械は、デジタルフルカラー複写機関連の主要工場が他地域に拠点を移したことにより、5四半期ぶりに減少した。化学は、化粧品が好調であったが、石油化学製品製造用触媒が低調であったため、引き続き堅調で横ばいとなった。輸送機械は、乗用車ボディの製造が低調であったため、減少した。情報通信機械は、新製品の発売に向けて携帯電話が伸びたが、パソコンの変復調装置が低調であったため、おおむね横ばいとなった。電気機械は、高水準で推移しているものの、半導体・IC測定器が低調であったため、4四半期ぶりに減少した。



- (備考) 1. 12年=100、季節調整値。
2. 平成18年3月の関東は速報値。

域内主要業種の動向(季節調整値、前期比) (%)

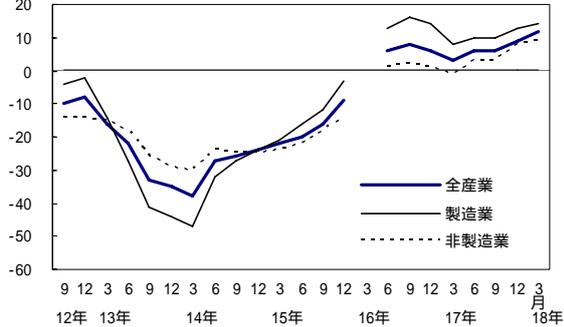
| | 付加価値 ウェイト | 生産 | | 出荷 | 在庫 |
|--------|--------------|-------------|-----------|-----------|-----------|
| | | 10~12 月期 | 1~3 月期 | 1~3 月期 | 1~3 月期 |
| 一般機械 | 13.8 | 3.0 | 1.3 | 2.7 | 3.3 |
| 化学 | 13.7 | 0.2 | 0.2 | 0.4 | 4.8 |
| 輸送機械 | 11.3 | 1.7 | 4.6 | 7.3 | 4.1 |
| 情報通信機械 | 8.6 | 13.8 | 0.0 | 2.6 | 11.6 |
| 電気機械 | 7.9 | 3.1 | 2.1 | 2.9 | 8.7 |
| 鉱工業 | 100.0 | 2.2 | 1.0 | 2.3 | 0.3 |

- (備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い5業種。
2. 1~3月期は速報値。
3. 1~3月期の化学の生産、出荷は、1月、2月確報値の平均より算出。在庫は、2月確報値。

(2) 企業動向の業況判断は「良い」超幅が拡大し、資金繰り判断は「楽である」超幅が横ばいとなっている。

企業短期経済観測調査及び中小企業景況調査

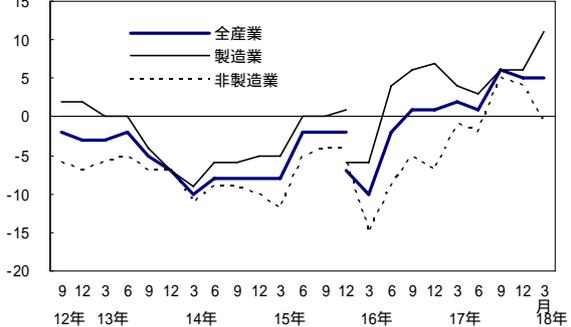
(%ポイント) 企業短期経済観測 [業況判断]



(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。

旧基準は15年12月まで。新基準は16年6月から。
関東全域(新潟県を含む)

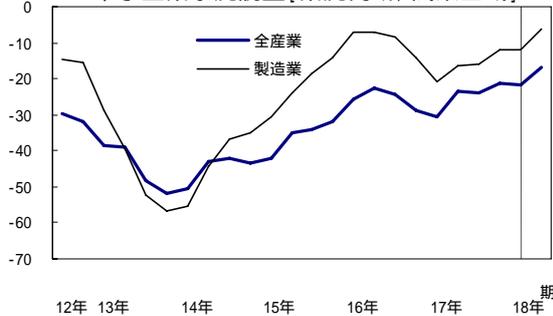
(%ポイント)企業短期経済観測 [資金繰り判断]



(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。

15年12月は新・旧基準を併記。
旧基準は関東全域、新基準は日本銀行前橋支店管内。

(%) 中小企業景況調査 [業況判断、関東全域]



(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。18年 期は見通し。

景気ウォッチャー調査(4月)[企業動向関連(現状)]

「自動車、産業機械、工作機械等、大変好調に推移している。一方、親会社の生産拠点が遠方に移動するために発注先の変更や取引ができなくなる例が出てきており、設備投資には慎重になっている(金属製品製造業)」など、「やや良くなっている」とする回答が多くみられた。

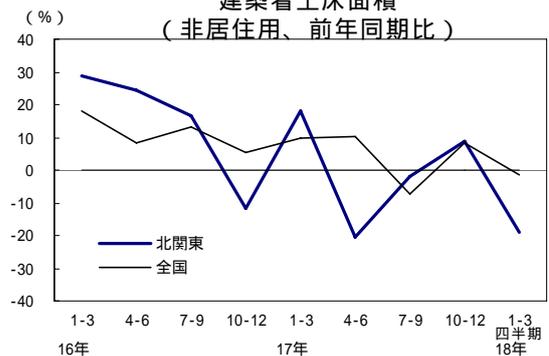
(3) 17年度の設備投資は前年度を大幅に上回る見込みとなっている。

企業短期経済観測調査 [設備投資(3月調査)]

| | (前年度比、%) | |
|------|------------|---------|
| | 17年度実績見込み | 18年度見込み |
| 全産業 | 12.1(0.3) | 6.1 |
| 製造業 | 6.1(2.5) | 15.6 |
| 非製造業 | 45.4(2.4) | 5.1 |

(備考)()は前回(12月)調査比修正率。
調査対象は日本銀行前橋支店管内。

建築着工床面積
(非居住用、前年同期比)



(3) 北関東

2. 需要の動向

(1) 個人消費は持ち直している。

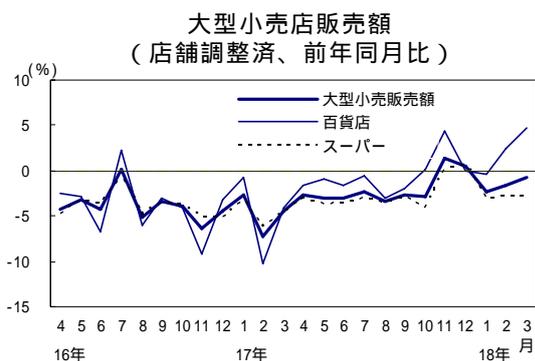
大型小売店販売額及びコンビニエンスストア販売額

百貨店は、1月は、初売り等により衣料品や身の回り品等が好調であったが、週末の降雪による来店客数の減少等により、4か月ぶりに前年を下回った。2月は、閉店セール効果等により衣料品や身の回り品が好調であったことに加え、催事効果により飲食料品にも動きがみられたことから、前年を上回った。3月は、移転開業効果等により、身の回り品や家庭用品が好調に推移したことから、2か月連続で前年を上回った。

スーパーは、主力である飲食料品が期を通じて伸び悩んだことから、3か月連続で前年を下回った。

景気ウォッチャー調査(4月)[家計動向関連(現状)]

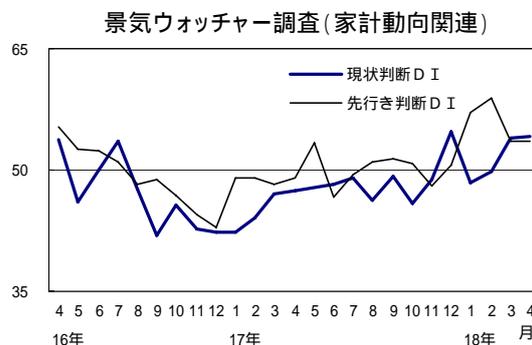
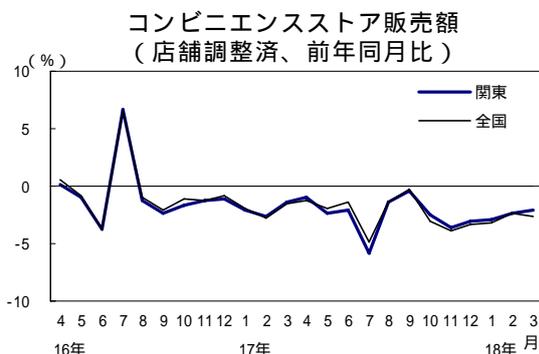
「3か月前と比べ、下見や試着など、客の買物に対する態度や動きが幾分上向いてきているが、まだ実売までは至っていない(衣料品専門店)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。



| | (前年同期比、%) | | | |
|----------|-----------|------|--------|---------|
| | 17年4-6月 | 7-9月 | 10-12月 | 18年1-3月 |
| 大型小売店 | 2.9 | 2.8 | 0.3 | 1.6 |
| 百貨店 | 1.4 | 1.7 | 1.3 | 2.2 |
| スーパー | 3.4 | 3.1 | 1.0 | 3.0 |
| コンビニ | 1.8 | 2.6 | 3.0 | 2.4 |
| 景気ウォッチャー | 47.8 | 48.2 | 49.8 | 50.7 |

(備考) 1. 大型小売店及びコンビニは店舗調整済。18年1-3月期は速報値。コンビニは関東全域。

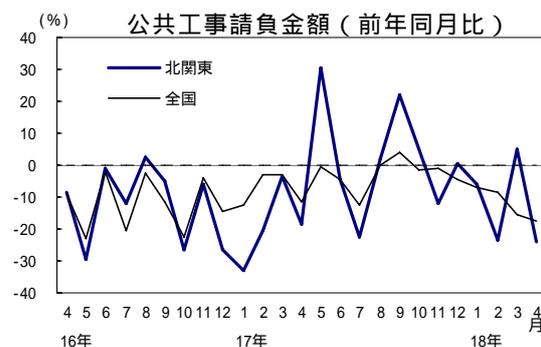
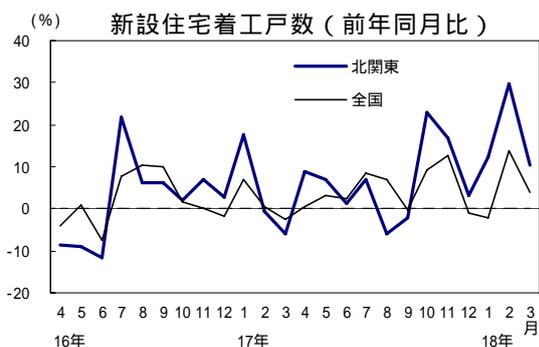
2. 景気ウォッチャーは家計動向関連の現状判断D Iの3か月平均。



(2) 住宅建設は増加している。

分譲、貸家、持家が前年を上回ったことから、全体でも大幅に増加している。

(3) 公共投資は17年度累計で見ると前年度とほぼ同水準となっている。

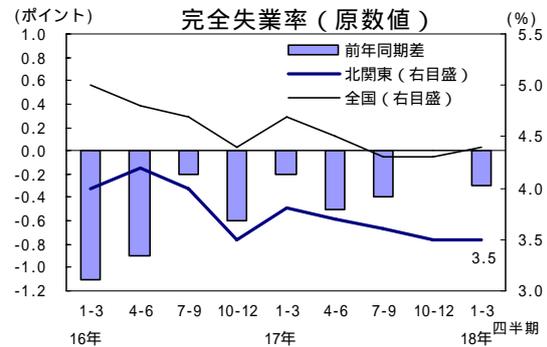
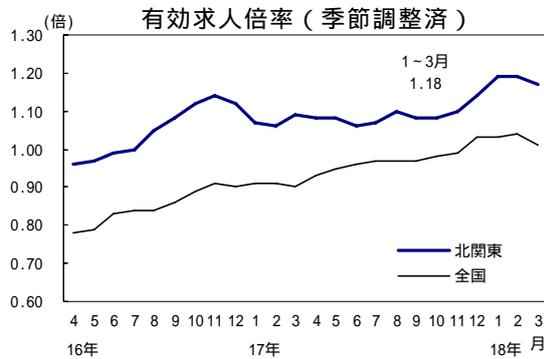


3. 雇用情勢等

(1) 雇用情勢は着実に改善している。

有効求人倍率及び完全失業率

有効求人倍率は上昇している。完全失業率は前年同期を下回っている。



景気ウォッチャー調査（4月）[雇用関連（現状）]

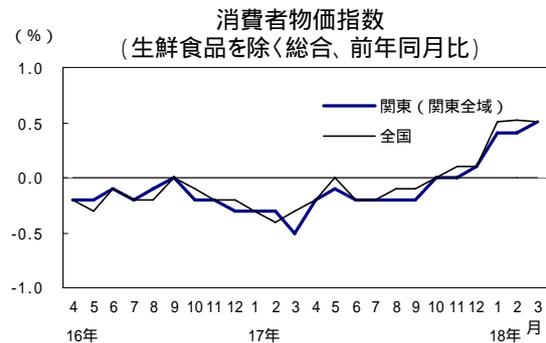
「1月中旬～4月中旬まで求人広告の掲載件数はかなり伸びていたが、ここきて連休が入る関係で広告申込が落ちている。また、コンビニや外食等では今まで何度か掲載をしているが、人が集まらない状況だと聞いている（求人情報誌製作会社）」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

(2) 企業倒産は、負債総額は減少しているものの、件数が増加している。

(3) 消費者物価指数は上昇に転じている。

企業倒産

| | （件、億円、％） | | | | |
|-------|----------|------|--------|---------|-------|
| | 17年4-6月 | 7-9月 | 10-12月 | 18年1-3月 | 18年4月 |
| 倒産件数 | 166 | 150 | 158 | 184 | 57 |
| （前年比） | 6.4 | 7.1 | 1.3 | 11.5 | 14.0 |
| 負債総額 | 883 | 760 | 1,000 | 946 | 335 |
| （前年比） | 44.1 | 24.4 | 3.4 | 6.1 | 78.0 |



景気ウォッチャー調査（4月）[合計（特徴的な判断理由）]

<現状>

・昨年に引き続きクールビズの展開を早め、トータル的な提案をすることで、おしゃれな男性の来店が非常に多くなっている（百貨店）。

<先行き>

・金利上昇に伴い、今まで様子見をしていた客が動き出す。現在、長期金利は確実に上昇しており、マスコミで騒ぎ出すと特需になる可能性がある（住宅販売会社）。

景気ウォッチャー調査（合計）

